令和3年度　大田区立糀谷学校　自己評価　報告書

令和4年3月7日

○　本校の概要

○学齢を超えた義務教育の未修了者等の10代から50代までの幅広い年齢の生徒が学習している。そのため、生徒一人一人の習熟度、学習ペースにあった教育活動を行う。
　また、近年、外国籍の生徒の入学が増加しており、すべての学習の基礎となる日本語や日本文化、日本の生活習慣を理解させるため、個々の生徒の実態に即した教育活動を行う。
○来日して間もない外国人生徒のために日本語を学習するコースを設定する。
○毎週金曜日の4校時は「糀谷タイム」として衛生教室／読み聞かせ教室／卒業生の話を聞く会／伝統音楽鑑賞教室などを実施している。
○犯罪に巻き込まれないように関係諸機関との連携をとりながらセーフティ教室や安全指導を推進し、非行・犯罪被害防止教育の充実を図る。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒アンケート ・「行事に積極的に参加した」 ・「友達と仲良くできましたか」 と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	4	・外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図った。 ・論理的、科学的な思考力の育成を目指し理科では実験を数多く実施した。 ・ICT機器を活用する教員の数が増え、学ぶ意欲の伸長が見られた。 ・夜間学級では人権課題、特に高齢者や外国人に対して目を向け、差別や偏見をなくし、互いの人格を尊重する豊かな心の育成を全教育活動を通して行っているが、人権資料等を活用した授業も計画する。 ・コロナ禍によって中止となった連合行事が多く、生徒はさみしい思いをしたが、本校会場の交流会は開催でき、都内夜間中学生同士の貴重な交流が図られた。	A	6	・適切と考えます。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指した体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4				B	2	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	2				C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4				D		
		放課後の活動や都内8校連合の行事の取り組みを通し、コミュニケーション能力や体力の向上を図る。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4						
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒と面談し、学習のつまずきや学習方法について、助言・支援を行う。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒アンケート ・「糀谷中の勉強は楽しい」 ・「熱心に参加している」 ・「わかるようになった」 と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	4	・様々な生育歴による多様な生徒の学力に対応するために、基礎・基本を重視し、特に、国語・数学・英語の指導に重点を置き、学習集団は日本語の習熟度によりコースを分けて指導にあたるが、英語、数学はそれぞれの習熟度別少人数指導を行った。 ・来日して間もない外国籍生徒に対しては、日本語を主に学習するコースを設置して指導にあたり、すべての学習の土台となる日本語力の育成を図った。 ・コロナ禍により、始業前の、補習が十分に行えなかったが、長期休業中には実施され、生徒個々の学力に対応した。	A	6	・適切と考えます。
		習熟度が異なる生徒に対して、自主教材の開発・提供や指導法の工夫や改善をはかる。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4				B	2	
		生徒個々の学力に応じて始業前などを利用して補習を実施する。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4				C		
								D		
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	法令などの社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を大切にする道徳教育を実施する。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒アンケート ・「糀谷中の生活は楽しい」 ・「規則やルールを守っている」 ・「そうじをきちんとおこなった」 ・「自分から挨拶する」 ・「先生は真剣に相談にのっている」 と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	4	・毎週金曜日の糀谷タイムの時間や学校公開、その他学校生活のあらゆる機会 を通して、規範意識向上プログラム等を活用し、人の生き方、相手の気持ちに ついて考えさせる教育を推進した。 ・全校スピーチ大会を実施し、自分の考えを自分の言葉ではっきり伝えられるよう指導した。 ・学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応した。 ・学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等に取組んだ。 ・問題行動・不登校問題等にかかわる生徒に関しては、毎日の打合せで報告し、対応し必要に応じてケース会議等を実施した。	A	6	・適切と考えます。
		全校スピーチ大会を実施し、自分の考えを自分の言葉ではっきり伝えられるよう指導する。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4				B	2	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				C		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				D		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4						
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒アンケート ・「進んで体を動かした」 ・「給食をきちんと食べた」 と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	4	・給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進した。 ・コロナ禍によって、体育的行事、部活動、休み時間などの活動が実施できないこともありましたが、コロナ禍でも可能な活動を模索し、運動習慣の確立を推進した。	A	6	・適切と考えます。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4				B	2	
								C		
								D		
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	各種研究発表会や授業改善セミナー等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒アンケート ・「先生の教え方はわかりやすい」 ・「ビデオやパソコンを使う授業はわかりやすい」 と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	4	・各種研究発表会や授業改善セミナー等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かした。 ・各教科部会、教科班会等の研究・研修の成果を共有し、自身の指導力改善に生かした。 ・校内委員会等を着実に実施し、学校における特別支援教育を推進した。	A	6	・適切と考えます。
		各部会、教科班会等の研究・研修の成果をOJTを通し、自身の指導力改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				B	2	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4				C		
								D		
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	生徒アンケート ・「糀谷タイムの授業は勉強になった」 と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	4	・教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信した。 ・地域教育連絡協議会において、児童・生徒の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努めた。 ・コロナ禍の影響もあって、ハローワークは連携が取れませんでしたが、警察、消防、図書館、清流邦楽の会と連携し地域力を生かした特色ある教育活動を実践した。	A	6	・適切と考えます。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4				B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				C		
								D		